

町田市スポーツ推進審議会（第1回）
議事録

1. 日時 : 2013年6月26日(水) 18:30~20:30

2. 場所 : 町田市役所10階第2会議室

3. 出席者 :

・町田市スポーツ推進審議会

(会長)	川崎登志喜	玉川大学教育学部教授
(会長代理)	渡辺剛	国士舘大学体育学部教授
(委員)	三ツ谷洋子	法政大学スポーツ健康学部教授
	山本正実	町田市体育協会理事長
	市川健一	東京都障害者スポーツ協会副会長
	守屋実	NPO法人アスレチッククラブ町田代表理事
(欠席)	佐藤正志	町田商工会議所専務理事
	柴田智	社会福祉法人悠々会・ケアフルクラブ悠々園施設長
	菊盛由利子	市民委員
	新宅雅也	市民委員
	比良田健一	堺中学校校長

・事務局

文化スポーツ振興部スポーツ担当部長	笠原道弘
スポーツ振興課課長	羽根田文夫
スポーツ振興課担当係長	河本晋一
スポーツ振興課	本田裕介

4. 資料類 : 次第

諮問書

資料1 スポーツ推進計画策定の方針について

資料2 審議会スケジュールについて

資料3 町田市におけるスポーツ推進の現状について

資料4 町田市スポーツ振興計画の現状と課題

参考資料1 町田市スポーツ推進条例及び関連上位計画

参考資料2 審議会について

・委員名簿 ・町田市スポーツ推進審議会条例

5. 議事要旨

■ あいさつ

(文化スポーツ振興部スポーツ担当部長 笠原道弘)

- ・今年「スポーツ祭東京2013」として、9月28日～10月8日までの第68回国民体育大会と10月12日～10月14日までの第13回全国障がい者スポーツ大会が東京で開催され、町田市ではサッカー、バレーボール、バドミントン、軟式野球を受け持つなど、スポーツイヤーとなる。また、2011年にスポーツ基本法が約50年ぶりに改訂されたことを受けて町

田市スポーツ推進条例をつくるなど、取り巻く環境も大きく変わってきている。町田市スポーツ振興計画の期間は10年間で、前期5年間で終わったため、後期5年間で「推進計画」として取り組む。前半は「スポーツ祭東京2013」の開催準備もあり大型施設の改修などが中心だったが、後半は市民スポーツに目が向けられるのではないかと考えている。推進計画の策定に向けて、多方面にわたってご意見をいただければと考えている。

■ 自己紹介

(川崎会長)

- ・5年前の振興計画策定時から引き続き参加させていただいている。よろしくお願ひしたい。

(三ツ谷委員)

- ・スポーツビジネスのコンサルタントとして30年以上スポーツとまちづくりの提案を行ってきた。またJリーグができる前から設立に関わり17年理事をしている。現在は法政クラブの理事もつとめている。審議会ではスポーツの産業振興もからめて意見を出していきたい。

(山本委員)

- ・昔バレーボールの選手をしており、現在は町田市体育協会の理事長と町田市バレーボール連盟会長として、国民体育大会に向けて町田市の関係部課と連携をとりながら準備を進めている。

(守屋委員)

- ・NPO法人アスレチッククラブ町田の代表理事をしている。FC町田ゼルビアのももとの理念は「地域スポーツの発展」であり、いろいろなスポーツが盛んになるよう現場の声が計画に入ればと思っている。

(柴田委員)

- ・鶴川にある高齢者全般に関わる施設を運営している。介護予防という視点から意見を反映させていきたい。

(比良田委員)

- ・3月に学校を定年退職して、現在、再任用で堺中学校の校長をしている。また東京都中学校体育連盟の副会長をつとめている。
- ・資料4（2ページ施策3のA）について、情報提供したい。
 - 1番目：スポーツ振興課には情報が届いていないようだが、学校が自主的に実施している。しかし、システムとはなっていない。実施の状況については、教育委員会指導課が把握している。
 - 2番目：教育委員会で予算をつけて、外部コーチを2～3時間2,000円で導入し、実績も増えている。外部コーチを導入しないと学校の先生だけでは部活はもたない状況になってきている。
 - 3番目：1校だけでは部活が成り立たない学校では隣の学校同士が連絡をとって以前から実施している。複数校での部活に取り組みないと、部活をやっても大会に出られないことになり、子どもたちが可哀想なことになってしまう。東京都中学校体育連盟のルールに則って実施している。勝つための部活は対象外となるため、私立と公立、私立同士のケースはない。

(新宅委員)

- ・振興計画から引続き委員になった。SDコーポレーションに所属し、スポーツを通じた地域交流のプランニングに取り組んでいる。

(菊盛委員)

・前計画時に市民公募で委員となり今回再選された。一市民の立場で意見を述べていきたい。

(市川委員)

・東京都障害者スポーツ協会副会長として、「スポーツ祭東京 2013」の企画に5年前から携わっている。国民体育大会と障害者スポーツ大会の一体開催は有意義なことであり、障がい者に関わることは一般にも関わることなので計画策定を手伝っていきたい。

(渡辺委員)

・国土館大学に勤めている。町田市民でもあり、前計画策定に引き続き、少しでも役立つようお手伝いしたい。

■ 会長互選

・渡辺委員からの推薦のうえ委員の賛同により、川崎委員が審議会会長として選出された。
・川崎会長からの指名により、渡辺委員が審議会会長代理となった。

■ 川崎会長あいさつ

・2009年に初めてスポーツ振興計画をたてた際に、5年で見直しをしてはどうかと提案した手前、良い方向に計画が向かうよう、皆様のご協力を得て進めていきたい。後期は振興計画から推進計画に変わるということで、振興計画の何が良く、何が悪かったかを見直していき、町田市に住む人が良いスポーツライフを送れるよう努力したい。

■ スポーツ推進計画策定の方針等について・町田市におけるスポーツ推進の現状について

(事務局より、資料1、資料2、資料3を説明)

(守屋委員)

・審議会スケジュールのなかに庁内会議とあるが、どんな人たちが参加し、そのような形で調整するのか？

(事務局)

・庁内会議のメンバーは、以下の課の課長となる。政策推進やスポーツをする対象者に関わる課のほか、場所の提供などに関して協力いただくため学校や公園関係の課も含めている。議論だけでなく協力してもらう立場で庁内各課に参加してもらい、資料を提示する。

文化スポーツ振興部	スポーツ振興課
政策経営部	企画政策課、広報課
地域福祉部	障がい福祉課
いきいき健康部	高齢者福祉課、健康課
子ども生活部	児童青少年課
経済観光部	産業観光課
都市づくり部	公園緑地課
教育委員会	学校教育部教育総務課、生涯学習部生涯学習総務課

(川崎会長)

・たくさんの課が策定調整会議のメンバーに含まれているが、毎回常このメンバーを招集するのか。

(事務局)

・基本的には審議会に提出する資料を事前に庁内で議論する形となる。第3回審議会と第4

回審議会の間の審議会がない9月、10月、11月に、策定調整会議を開催し施策を具体の事業に落とし込むための検討をしたいと考えている。

(守屋委員)

- ・資料3の達成目標3で、地域スポーツクラブについて書かれているが、地域スポーツクラブの認定の要件は何か？

(事務局)

- ・地域スポーツクラブは「誰でも、いつでも、どこでも、いつまでも」地域に住む人が主体となるスポーツクラブと言われている。そういった活動の実態がある団体で市に相談があった団体を、市が認めるというのはおこがましいが市と一緒にやっていただける団体として、東京都地域スポーツクラブサポートネットに町田市が紹介して登録していただき、その登録をもってカウントしている。こういう形で市が支援していることを知ってもらうことも今後の課題だと考えている。

(川崎会長)

- ・課題の詳細については、また次のところで委員からのご意見をいただければ思う。

(菊盛委員)

- ・今の地域スポーツクラブの目標について、2018年の達成目標が11クラブとあるが、これは自然発生的に増えていくものか、町田市から団体にアプローチしていくのか？

(川崎会長)

- ・その点については課題のところでは具体的な分析があると思う。

(三ツ谷委員)

- ・達成目標3で、ホームタウンチーム来場者数のことがあるが、来場者数には市外の人も含まれていると思うが、どのようにカウントしているのか？

(事務局)

- ・達成目標は市内からの来場者と考えているが、実際にカウントするのは難しいため、目標の到達を推し量るために測定可能な指標として市外の人も含めた来場者数を出している。

(新宅委員)

- ・前期5年の振興計画ではゼルビアとペスカドーラの2チームで将来17万人の来場者数を目標としていたが、キャノンイーグルスが新たに追加されて目標値を増やすのか、それとも同じ数値とするのか？

(事務局)

- ・目標値については、第2、第3回目の審議会でご議論いただきたいと考えている。

(新宅委員)

- ・2チームと新たに追加されたチームは別に表示したほうが分かりやすいのではないかと。同じ目標値として表示すると、もう少しで目標が達成できるのかと誤解してしまうが、当初の目標とは違うため、それがわかるような表示が良いのではないかと。

(事務局)

- ・前期はキャノンイーグルスに来てもらえることを想定していなかったが、キャノンイーグルスも含めた形で、例えば17万人ではなく20万人といった目標とすることも考えられる。

(三ツ谷委員)

- ・Jリーグでは全てのホームゲームの来場者の調査をしており、ゼルビアも観客調査をしていたと思う。市内外の調査項目もあったのではないかと。

(守屋委員)

- ・毎回ではないが年に1回は市内外の項目を調査している。

(三ツ谷委員)

- ・その割合を目安として、市内来場者数を算定することができるのではないかと。

(守屋委員)

- ・それは可能だと思う。

(川崎会長)

- ・それでは、課題のほうの審議に進めたい。事務局から資料4の説明をしていただきたい。

■ 町田市スポーツ振興計画の現状と課題について

(事務局より、資料4を説明した。)

(川崎会長)

- ・たくさんの現状と課題があるが、特に現状について未実施の部分は勇気をもって言っただけ、良い分析だったと思う。それぞれの専門のお立場で気になったところを集中してご意見いただければと思う。

(山本委員)

- ・体育協会の立場で組織運営上、各競技で施設がうまく使えるかが一番の課題である。そういう意味では国民体育大会にむけて施設を改修していただいたが、今後は優先予約の問題を含め、どのような順位づけをしていけば良いかが差し迫った問題である。もう1つ、指導者の問題は体育協会でも長年課題に挙げているが、つい最近では学校の授業で武道が導入されたが、体育協会としてどのように対応をしていくかを各競技連盟と連携をとることになる。体育協会への要望は直接にはない。そこに大きな課題がある。スポーツを広めていくためにはその2点が課題となる。

(市川委員)

- ・障がい者スポーツで気になった点として、まず、振興計画を見て、総花的にいろいろな課題があるという認識を持ったのが1点。次に、もともと私は障がい児教育に携わった延長で障がい者スポーツの仕事をしているが、東京都のスポーツ推進計画をたてるためにアンケートをとったところ、指導者、施設、情報、財源の問題があった。振興計画の課題は、一般のアンケートと重なっている部分がかかなりあるという思いをもって読んだ。この地域でスポーツ教室を子どもたちに開催してきたが、人に言えるような成果が出なかった。指導者の養成をして資格を取ってもらっても、3割くらいしか実働の要請がない。施設がなかなか使えず、学校や公共施設をお願いしているが座を占められて入り込めない。モデルを作って計画を進める必要がないか。例えば地域スポーツクラブを11に増やすという目標についても、1つモデルを作って、その中で障がい者あるいは高齢者や子どもも含めたクラブを作ってもらえると、我々も入りやすいし計画立案の段階で参画しやすい。スポーツ基本法の中に障がい者が入ったことは画期的なことだと受け止めており、具体的にモデルを作って動き出すことが必要だ。もう一つ、その前段で情報の提供だけでなくアンケートをとるなど情報の入手を何らかの形でやっていただきたいというのが切なる願いだ。

(守屋委員)

- ・自分のクラブで障がい者のスポーツをうたっているが、なかなか実施できず、指導者もいない。後で市川さんにいろいろ教わりたいと思う。地域スポーツクラブをこれから増やしていくなかで、学校も使っていくとあるが、やはり地域スポーツクラブの要件が必要だと

思う。私達が運営しているクラブはお金をとっているとされることがあり、地域スポーツクラブといっても学校と私達のようなクラブに対する考え方は市の中でも違うと思うので、一度整理したほうが良い。情報発信については手つかずではあるが、いろいろなところで発信していきたいと考えている。スポーツの新聞を作りたいという団体もいて、今後の審議会で提言していきたい。行政の縦割りを排して、横のつながりを作っていくことが重要である。民間と行政が一緒になって推進計画を作り、そして課題にあたっていきたい。

(川崎会長)

- ・5年前に振興計画を作った際に、文部科学省の総合型地域スポーツクラブという名前をあえて使わず、「総合」を外して「地域スポーツクラブ」という名前にした。町田市のモデルを作って全国の人が見学に来るぐらいになれば良いと意見を聞いていて思った。

(柴田委員)

- ・資料3の高齢者のスポーツ参加をみると、温水プール参加者が明らかに減少している。高齢者が増えているにも関わらず参加数が減っている。他の施設がどのような状況かわからないが、もっと参加しやすい施設づくりが必要だと思う。箱モノを作るだけでは通える人しか通えないという現状がある。我々も送迎をしないと成り立たない。プログラムを作成して地域に出向いて行くシステムが作れば高齢者がスポーツに参加できる機会が増える。我々も自治会や町内会に出向くが、高齢者は喜んで参加してくれるし、健康づくりに役立つ。そのような点を課題に自分も動ければと考えている。

(菊盛委員)

- ・町田市で1つのモデルとしてスポーツクラブを作っていけば、それに追随して新たなクラブが増える可能性があるのではないかと。また、我が家にも82歳と87歳の高齢者がいるが、年間通じてスポーツをする機会はない。体育館は市内に2箇所しかなく、学校開放制度に期待をしている。歩いて行ける場所でのスポーツの参加が必要かと思う。

(新宅委員)

- ・スポーツを指導する機会が多いが、学校によってはクラブを管理する人はいるが指導する人がいない。派遣できるかは別にして、問題を総合的に拾い上げてくれる駆け込み寺があるといい。子どものランニング教室をやっているがJリーグの規定が厳しく芝を使わせてもらえず、指定管理者制でも部門が違うとなかなか「イエス」と言えない。高齢者のウォーキングも指導しているが、膝が痛く一度座ったら立ち上がらないという人でもちょっと足が上がるようになったというような変化が見えるとやる気になったり、周りの人と会話することで笑顔が出てきたりということがあるため、先ほど柴田委員の発言にあった送迎なども含め一連のシステムがあると参加しやすくなると思う。その他、ランニングやサイクリングコースの街灯を増やしていただくなど、希望をすればきりがなく、多様な課題はあると思うが、場所が分散されていることをうまく利用して、できるところから実現していきたいと思っている。

(渡辺委員)

- ・スポーツ振興計画に基づきいろいろな団体に関与してくる。計画をつくるとバラバラに動き出すため、町田モデルを作るには、誰かがコーディネートすることが必要。バラバラに動くとまとまりがなくなり、何をやっているかわからなくなる。声の大きいところを通るといった問題も出てくるかもしれない。市民参加型を進めるには、総合的に調整する機能が必要だ。

(三ツ谷委員)

- ・まず町田の実情がわからないので質問させていただきたい。スポーツ広場とはどのようなところか？

(事務局)

- ・遊休地や未利用地、学校予定地などを暫定利用の形でスポーツに利用してもらおう広場で、今の学校開放と同じで、それぞれの広場に近隣の方で組織する開放委員会がある。

(三ツ谷委員)

- ・計画を読むと総花的で全部実現すれば素晴らしいが、それは不可能かと思う。まず市が主体となってやること・支援することと、民間や企業に任せることを整理する必要がある。未実施というのは、市ができないことではないかと思う。例えば6ページのコーディネーターの養成はいろいろな機関がやっているため市が直接する必要はなく、振興計画にあるように「呼びかけ」でよい。それよりも優先順位としてやるべきことがあるのではないか。限られた財源のなかで市が主体となってやること、バックアップして地域の団体と一緒にやることを整理するとすっきりするのではないかと思う。

(川崎会長)

- ・次の5年間で市がやるべきことは何か、市民がやるべきことが何かという役割を計画に盛り込むとすっきりすると思う。限られた時間や予算のなかで振興計画を実現可能なもの、そして5年間たったら良くなりそうだなという夢のあるものになるよう骨子案に盛り込んでいただければと思う。また、課のメンバーの情報収集力を高めることも今後の課題となる。少ないメンバーしかいないかも知れないが、スポーツに関する情報が集まるシステムを課が作っていくということが大事になっていくのかと思う。ちょうど時間となったので、司会を事務局に戻したい。

■ その他

- ・第2回審議会

日 時： 7月20日(土) 10:00～12:00

場 所： 10階第2会議室

テーマ：推進計画骨子、施策体系について

- ・第3回審議会

日程調整の結果、

8月19日(月) 18:30～ 場所未定 となった。

以上